



夢の実現に向かって

市川市立曾谷小学校長 八重樫 茂

最上級生になった6年生の教室の廊下掲示板に、「こんな6年生になりたい」「こんな1年間にしたい」という6年生のめあてや決意が貼られています。の中には、「最高学年として、たてわり活動やクラブ活動で下の学年の子にやさしくしたい」「1年生の手本となる行動をしていきたい」「明るく協力できるクラスにしたい」といった学校や学級のことをめあてとしたものや、「歴史のことについていっぱい勉強したい」「算数が苦手なのでがんばりたい」といった勉強のめあてもありました。また、「野球で県大会に出場する」「習字で1級になりたい」などといった自分自身の目標もありました。どれも子どもたちの夢や願いがよく伝わってくるものばかりでした。ぜひその実現のために、この1年間がんばってほしいと思います。

6年生に限らず、どの学年の子どもも、みんな進級や入学してそれぞれの目標や課題をもって、新しい学年をスタートしたばかりです。充実した一日一日にしていくために、また実りある1年にしていくために、どの子どもがんばろうとしています。また、きっとこれから多少の壁や困難、越えていかなければならないハードルも現れてくるでしょう。子どもが成長したり、自分の世界を広げたりするためには、それを努力して克服していくことも大切なことと思います。そのような子どもたちの夢の実現のためにも、保護者や地域の皆様がそれを支え、励まし、導いてくださるよう、よろしくお願いいたします。

今度の全校朝会で、田中トシオさんの「夢の五原則」の話をしようと思っています。田中トシオさんは、小さいころから不器用でしたけど、やがて自分が不器用だと自覚した時「人並みになりたい」と思い、技術の道に進んでいきました。毎日毎日365日休まず猛練習してやっとヘアデザイナーになることができました。そして、ヘアデザイナーのコンテストのチャンピオンを目指し、挑戦し続けましたが負け続けてナント150連敗もしました。それでもあきらめずに、やっと日本チャンピオンになり、やがて世界チャンピオンにもなった人です。当時は「2勝150敗の世界チャンピオン」と言われた人です。その後、書画家やエッセイストとしても活躍しています。その人の言葉に「夢の五原則」というものがあります。それは、「夢をみよう・始めてみよう・続けてみよう・話してみよう・信じてみよう」の五原則です。これは、①まず、夢をさがし、夢を見つけ、夢をみよう。②そして、それにまず取りかかってみよう、夢を始めてみよう。③夢を始めたら続けてみよう、初めてのことなら多少の困難や壁はつきものですが、努力して続けてみよう。④夢を続けてみたらだれかにそれを話してみよう、話すことにより自分でもよりやる気がでてくる、また同じ夢を続けている人に出会うかもしれない、仲間ができれば心強い。⑤そして、自分の夢の実現を信じてみよう、という話です。夢は必ずかなうものです。自分の世界を広げ、あこがれやめあてをみつけて、将来の姿を描いてください。そして、自分の夢を信じてみましょう。



4/20 1年生を迎える会の入場



曾谷ビーイングの室内の様子

